

「検体測定室ガイドライン」見直しに向けた「検体測定室」実施に関するアンケート調査

1. 検体測定室に関するお客様の反応について	同様件数
<ul style="list-style-type: none"> ・病医院に行く時間がないから、短時間で結果が出て助かる ・子供が小さいので、病院に比べ待ち時間なく計測できるのは良い。 ・健康診断を受けていないので、気軽に測定できて助かる ・薬局なので気軽に測定できる。薬局『だから』実施した。 ・気軽に測定できるため自覚症状のない生活習慣病予防への意識が高まる ・手軽にできて良い ・健康診断で高いと言われ、定期的に測定できて助かる ・薬局でもできることを知らなかった ・店頭でチェックできると身近で確認できて良い ・特にクレームなどはない。 ・お客様はとても好意的で感謝の言葉頂いています。 ・継続利用のお客様が多い。 ・普段ご利用のないお客様の問い合わせがある。 ・あきらかに、お客様ではなく、省関係の問い合わせも多い。(実施確認か?) ・測定して良かったと思われる方がほとんど ・認知度は低い ・近くて便利 ・結果を踏まえて病院を受診し他の病気が見つかった ・痛くて怖そう ・検体測定室という名前がわかりにくい、簡易血液検査室の方がわかりやすい ・普段検診をしているので有料でやろうとは思わない、無料ならやる ・その場で結果が分かるのが良い。 	2
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の結果を持って医療機関への受診/生活習慣の見直しを行います。 ・健康のために食事を気を付けたり、運動しているのが数値で把握できた ・市の健診に面倒で行っていなかったがちゃんと受けようと思った ・検査項目が期待していたものではなかった場合、残念な反応をされる ・血液採取について、抵抗を感じる方がいらっしやる ・健康診断でひっかかったので、生活習慣を見直した。その成果を確認したい。 ・ドラッグストアだと処方せんが無くてもお願いできるのでよい(血糖値) ・ドラッグストアでも測れるようになり便利だ 	3

2. 検体測定室の可能性について	同様件数
<ul style="list-style-type: none"> ・病医院に受診していないが、健康診断等で高い結果がでたことがある方においては、確認することで不安を解消したり、病医院への受診きっかけになっており、そのニーズは非常に高い。 ・お客様の健康関心に訴えかける取り組みとしては反応も良く、身近で健康チェックできるのできっかけにはなる。 ・今後の課題として、次の2点を挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> ①有料の場合、健康関心層でない層への波及は見込みづらい点 ②全体として測定後の流れをお客様視点で具体的に組み立てて、見えるようにしないと、測定して終わりになってしまう点 (現状ではお客様の主体的な行動に任せる流れである) ・検体測定室と「間仕切り等で区切られた相談窓口」が兼用出来たら良い。 ・診断 治療への期待 ・必要ではあるが、実際には本当に必要な例は少ない ・健康寿命の延伸 ・疾病(生活習慣病)の早期発見早期治療 ・医療費の削減 ・現在関心のある方のみだが、対象が拡大すれば病気予防に貢献できると考えられる ・地域医療に貢献(1人でも多く測定してもらえれば地域の健康増進になる) ・名称と内容がマッチしていないため、浸透しにくいと感じる ・ターゲットが全く絞れない為、拡大が難しい ・反対勢力もあり、十分なアピールができていないことが問題と感じる ・理解を得たのちにメディア等も用いてお客様に周知させる必要がある。 ・常設では回転率が悪い為、今後見送る可能性が高く、イベントとして多くの方にご利用頂く方向で考えている 	2

<ul style="list-style-type: none"> ・薬局/薬剤師のあるべき姿実現に現状最も適しているものの一つと考えます。 ・地域の人々のQOL維持に必ず役立つので可能性は非常にあると考えます。 ・検査項目を増やすことで安易な医療機関受診の抑制(インフルエンザなど) ・受診勧奨ツールとして活用できる ・医療機関との連携ツールとして活用できる ・特定薬剤師に限定的な処方権を付与し、検査結果を基に処方と調剤を行う。 ・検査結果を基にした商品販売禁止の緩和によるセルフメディケーション推進。 ・薬剤師、薬局 ドラッグストアの予防領域の業務推進 ・糖尿病、脂質代謝異常症の スイッチ医療用医薬品 販売 ・病院 医院との 患者紹介連携 ・病院で相談しにくい人への後押しになる(血糖値が高く、受診勧奨したケースあり) ・知っている人が少ない状況なので、多くの利用者に知ってもらう必要あり。 	
--	--

3. 検体測定室の設置に関する要望事項について	同様件数
1) 構造設備	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし(無記入) ・現状問題なし ・簡易なものに越したことはない。 ・常設店舗でない限り、パーティションの備え付けがないのでイベントでの実施時に確保が困難 ・投薬台の使用を可能にしてほしい(保健所によっては、投薬台はあくまで処方箋をもってきた患者様へ調剤をするところであって検体測定室を行う場ではないと言われた) ・OTC店舗で実施する際も簡易仕切り版等で実施可能としてほしい ・血液の飛散がほぼ無いので、より簡易的なスペースでの実施が可能 ・保健所(本来は厚労省だが)の判断が入るケースがあるのでその点が困る ・自治体によって異なる解釈(個室設置など) ・個室の設置要件が、スペース的、コスト的な障壁となっている。 ・「検体測定室」の場所は薬局構造から外すよう保健所から指摘あり(静岡ルール?) 	8
2) コスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・試薬代が高い ・試薬のロスが多い ・試薬の廃棄率が高い為、返品対応してほしい ・機器や消耗品が高コストである ・ランニングコストがかかる(ディスク代) ・試薬や衛生材料費用及び廃棄に関する費用 ・コストがかかるため、有料でない薬局側の負担が多い。有料だと定期的にチェックするという自発的な部分につながりにくい。官公民でのつながりを基に循環できる仕組みが特定の場所に限らずあると良い。 ・血糖測定だけなので、特に気にならないが、HbA1cや血清脂質のコストは高い。 ・安く済むに越したことはない。 ・補助金があれば開設しやすいのでは ・推進にあたり常設への補助金給付 ・値段をどの程度に設定するのが妥当かがわからない ・ガイドライン個室設置要件緩和により個室の設置費用を低減したい。 ・業界全体として導入が進むことで、検査機器のコストを低減したい。 ・コストに関しては特段の負荷はありません <ul style="list-style-type: none"> ①薬局の必要な機能と考えるので、設備は必要経費と考えます ②労務コストは運用次第で通常業務に組み込めると考えます ・問題なし ・特になし(無記入) 	2
3) その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師以外でも運営責任者として実施したい(事務・管理栄養士) ・医療連携の部分について、連携の依頼をすると医師会の兼ね合いや「連携」という言葉から特定の薬局(特に面)とは連携できないなどの回答をもらうこととなるハードルも ・測定項目の広がりを期待します。 ・救急時の連絡先として、近隣の医師の連絡先が必要だが、日祭日の実施は? ・検体測定室実施の際の申請が手間なのでインターネットやメールで簡易的にできると 	

<ul style="list-style-type: none"> ・試薬を卸しさんから購入しているので近隣の調剤薬局に卸してもらい、自社スタッフで直接店間移動をしてイベント時に使用している。直接納品できる仕組みを整えてほしい。おそらくメーカー都合だと思いますが改善してほしい。 ・血液検査にかかわる人全員が、検体測定室運営責任者として登録する必要はないと ・医師、医療機関の理解が必要 ・特になし(無記入) 	8
---	---

4. 検体測定室の運用に関する要望事項について	同様件数
1) オペレーション <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士も測定説明ができるように緩和されると効率面でも拡大できるのでは。(承諾書の確認を除くなど) ・有資格者に登録販売者の説明対応の許可 ・一定の研修を受けた者であれば、未資格者でも採血補助を行って良いものとして欲し ・承諾書の内容がお客様に伝わりにくい ・実施者の拡大、検体測定室研修を受けた人は全員実施者となると受け付け時間が伸びる。また栄養士による専門的な食生活のアドバイスが可能になる ・特に負荷なく実施できます ・運営及び管理責任者は薬剤師で構わないが、採血時の対応は登録販売者や医療事務員での対応を可能にしてほしい(自治体の解釈による) ・責任者でないと説明できないのが難しい ・採血が本人で無いと出来ない為、時間がかかる ・ガイドライン緩和により、検査承諾書や関係書類の保管負担を軽減したい。 ・慣れれば問題なし。 ・特になし(無記入) 	6
2) 情報提供(測定結果についての) <ul style="list-style-type: none"> ・測定結果を伝えるのみとなるとお客様の主体性のみに任せるため、測定側(薬局)からももう少し具体的な説明を可能とすべき ・診断までできるのが希望 ・診断はできないということで、言葉が制限される点がわずらわしい ・責任者のみが説明可能だが、他の者も説明できるようになると良い ・制約が多すぎる。もっと詳細に知りたい利用者の方が多い。 ・受診勧奨するにしても納得してもらうためにある程度の情報は伝える必要あり。 ・受診勧奨をする基準値を明確に提示してほしい ・結果に基づくアドバイスの言って良いラインがわかりづらい。診断(病名)行為をしなれば問題ないと考えます。 ・業界全体で基準値(受診勧奨の目安等)を統一すべき ・薬剤師以外の管理栄養士や登録販売者によるカウンセリングを可能にしてほしい ・特定薬剤師制度等の導入により、情報提供範囲を広げていきたい。 ・現在のガイドラインにおいて結果を伝えそのアドバイスができないというルールは検体測定室の意味を失わせている ・特になし(無記入) 	4
3) その他(廃棄など) <ul style="list-style-type: none"> ・問題なし ・特に負荷はありません ・医療用廃棄物として適切な廃棄を実施する上で、現行ガイドラインは妥当。 ・特になし(無記入) 	12

5. 検体測定室の導入・普及に関する要望事項について	同様件数
1) 告知・PR <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省から具体的な文言でアピールして欲しい。 ・「検体測定室」の名前の認知告知行動 ・メディアで幅広く認知を上げていってもらいたい ・医療機関への理解を求める活動(近隣の先生の顔色を伺って中止になる場合もある) ・市役所の理解(市役所は検診率を高めたい。地域の方々が検体測定室をうけているという理由で検診率の低下にならないかを気にしている) ・検体測定室の名称変更 ・業界全体で様々なメディア等を活用すべき ・推進に関して医師会・薬剤師会の協力 	

<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで検体測定室がある薬局を調べられるといいと思う。 ・世間一般にそういったものがあるという認識が無いため、告知が難しい ・業界全体で国民向けに本サービスの取り組みを発信して認知度を高めたい。 ・まだまだ足りない。ニュース・報道に取り上げられると一過性に増えるが、継続性がない。継続してもらえる施策が必要かもしれない。(糖尿病手帳配布など) ・ドラッグストアショーで継続的に検体測定室を実施し啓発して頂きたい ・特になし(無記入) 	5
2)測定項目	
<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザの簡易検査 ・尿酸値も入れてほしい ・肝機能 ・貧血 ・総コレステロール値 ・腎機能 ・炎症マーカー ・肝機能値が認められているのでメーカーの早期対応をお願いしたい ・肌 脳 認知等の診断指導を希望 ・様々なことが出来たらよい。 ・現在は限定的なので、幅広くなると患者お客のニーズに合うと思う。但しそれ用の機器が必要となるのでコストも上がる問題がある ・血糖値のみの扱いなので、比較できない。 ・利用者の他の測定項目に関するニーズの調査報告はないのでしょうか？ ・特になし(無記入) 	4
3)その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・検査試薬の期限が短い。期限切れになることが多い ・採血だけでなく、唾液による遺伝子検査などもひろめられれば良いと思う ・特になし(無記入) 	13

6. 検体測定室に関するその他の要望について	同様件数
<ul style="list-style-type: none"> ・行政指導された例の開示 ・要望と言うより質問。受検者が検査結果からOTCや健康食品の購入を希望した場合は、該当する商品を勧めて良いのか。ガイドラインに抵触しないか。 ・現在はこの業務では利益がとれていない。(測定料金の設定にもよるだろうが)薬局のアピールとして行っている現状である。これらが解決すれば行う薬局が増えるのではないかと思う。測定料金があまり高額だと受けづらいこちらも進めづらい ・外部での実施者研修の頻度が少ない ・実施実績の情報公開(実施項目、地域、年代、男女など) ・健康サポートに文言が加わったら対応する薬局が一気に増えると考えます。それができるなら薬局の価値確立と薬剤師の質向上のため一つでも多くの薬局が対応すべきと考えます。その点を踏まえ是非御協会には推進のご協力をお願いいたします。 検体測定室は薬剤師のモチベーション向上にもなり、とても良いシステムと感じています。ぜひ、ドラッグストア・薬局に常設があたりまえになってほしいです。 ・情報提供の制約が厳しすぎる。そのあたりの改善が必要。 ・利用者の方もある程度、調べて来られるので、お伝えできない情報が多いのは、非常に残念である。 ・名称が分かりにくい 消費者目線だと何のことかわからない ・特になし(無記入) 	8